

りゅうおう

議会だより

No.201
2022年11月1日
滋賀県竜王町議会

竜王新古今八景
竜王インターチェンジ全景



《ものづくり日本を担う
企業の立地とそれを
支える物流の発展》

定例会報告 P2～ 令和3年度決算

委員会報告 P6～ 住民対応窓口ワンストップ化について

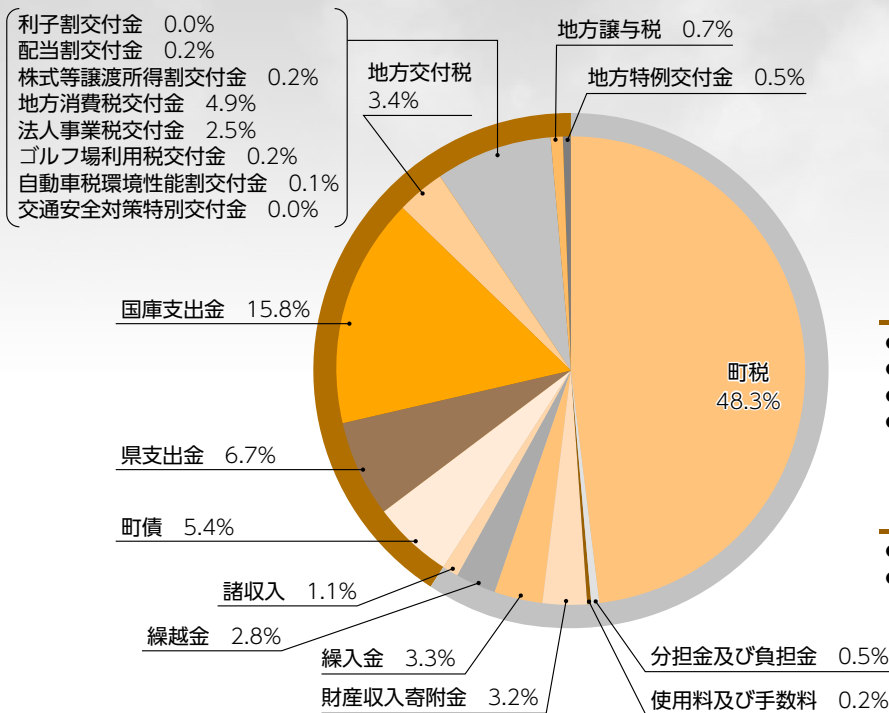
一般質問 P10～ マイナンバーカードの普及の取組について

9月定例会

9月定例会を9月2日から27日までの26日間の会期で開催しました。
 条例改正4件、補正予算6件、決算認定8件、人事案件4件を原案どおり可決しました。

一般会計歳入 **71億4379万円**

(対前年度－13億4398万円)



自主財源 **42億4466万円**

依存財源 **28億9913万円**

自主財源 42億4466万円 59.4%

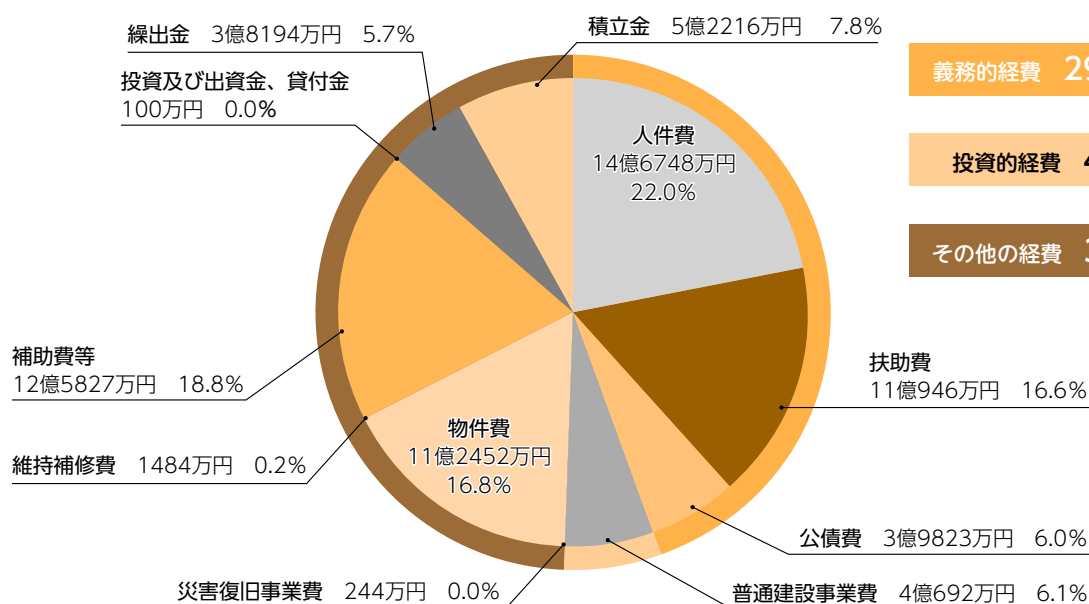
- 町税 34億5138万円
- 財産収入他 4億9915万円
- 繰入金 2億3761万円
- 分担金他 5652万円

依存財源 28億9913万円 40.6%

- 地方交付税、交付金他 25億1003万円
- 町債 3億8910万円

一般会計歳出 **66億8726万円**

(対前年度－16億211万円)



義務的経費 **29億7517万円**

投資的経費 **4億936万円**

その他の経費 **33億273万円**

主な質疑応答

総務部門

問 会計年度任用職員のフルタイムが減ってパートタイムが増えた理由は。

答 本人の希望と各課の要望による見直しと正規職員の育休に伴う雇用等で増加している。

問 防災情報無線を全世帯に配付されたが、企業寮にも配付されているのか。

答 現在は配付していないが、今後、配付する予定。

住民福祉部門

問 福祉医療費助成事業で「県+町事業」と「県事業」の違いは。

答 「県+町事業」は、「県事業」の一部自己負担分を「町事業」で助成している。

産業建設部門

問 土地改良施設等維持補修事業と農業水路等長寿命化・防災減災事業は、どのように区分されているのか。土地改良施設等維持補修事業の約101万円の修繕内容は。

答 町直営の事業と国の事業の違い。具体的な修繕内容は、惣四郎川の樋門の水位計と長池の横の遊歩道の一部修繕等である。

問 滋賀竜王工業団地に進出した企業の生産品をふるさと納税の返礼品に加えてもらえないか。

答 滋賀竜王工業団地と山面工業団地の中でいくつかふるさと納税の返礼品に出来そうな企業もあり、これから返礼品の充実を図っていきたい。

教育委員会部門

問 保育所運営費が今回約100万円減になった理由は。認可外保育3施設とは。

答 定員は決まっているが、年齢によって公定価格が変動することによる。認可外保育施設は、山之上保育園、ピノキオと大津市と湖南市にある。

問 英語検定の補助実績で50人減になった要因と補助についての考え方は。

答 コロナ禍の影響と検定料の値上がりが受験者減につながり、これが主な要因と考える。町が会場を準備することで検定料を安く受検できているが、今後、補助金の増額も検討が必要と考えている。

令和3年度一般会計決算に対する反対と賛成の討論

反対意見： 中心核整備事業について、コロナ等先行き不透明な状況下で中・長期の財政計画が示されないまま、大型開発事業を進めるのはハイリスクであり見直すべき。

賛成意見： 令和3年度決算は、実質単年度収支4億3,225万円の黒字。前年度差3億1,845万円増と大幅に改善された。町民ニーズに応える為に、第六次竜王町総合計画の重点プロジェクトである中心核整備事業は着実に推進すべきである。

令和3年度の主な事業と決算額

『活力あふれるまちづくり』の推進

- 2025滋賀国民スポーツ大会に向けた施設整備 **1億2153万円**
- 竜王小学校の移転新築に向けた整備 **299万円**
- 「交流・文教ゾーン」整備の推進 **5900万円**
- 道の駅機能強化の推進 **6979万円**



『安心して暮らせるまちづくり』の推進

- 新型コロナウイルス感染症の経済対策 **3億5123万円**
- 新型コロナウイルスワクチン接種の推進 **7446万円**
- 認定こども園への移行 **234万円**



『みんなで進めるまちづくり』の推進

- デジタル化の推進 **2089万円**
- 防災情報システムを活用した
情報発信強化 **488万円**
- 地域自治組織のあり方検討 **190万円**



9月補正予算 2億20万円

主な内容

・ 市内ネットワーク再構築整備事業他	4144万円
・ 総合庁舎便所（西側）改修工事他	5238万円
・ 交流・文教ゾーン配水管布設設計業務	998万円
・ 物件補償費	1739万円
・ 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金	400万円
・ 新型コロナウイルスワクチン接種事業	1747万円
・ 旧医科診療所解体等工事他	3730万円
・ 農業用燃油等高騰対策緊急支援事業補助金	1150万円
・ 情報セキュリティ強化対策整備業務（※債務負担行為補正）	1億4565万円
・ 広報りゅうおう印刷業務（※債務負担行為補正）	1362万円

※債務負担行為とは、単年度で終了しない事業などにおいて後年度の債務を約束することを予算で決めておくこと。

7月臨時会

7月27日に臨時会を開催し、補正予算2議案が上程され、慎重審議の結果、原案のとおり可決しました。

<一般会計補正予算>

畜産競争力強化対策整備事業費補助金	2億991万円
災害復旧費（7月19日大雨による町道法面復旧）	750万円

<水道事業会計補正予算>

建設改良費（須恵地先基幹管路漏水復旧工事）	3000万円
-----------------------	--------

教育民生常任委員会



住民対応窓口ワンストップ化について

◇本館 1 階に住民課、福祉課、健康推進課、自立支援課を集約する背景と目的

住民福祉に関する住民の相談、手続きは年々複雑化している中で、本館 1 階に集約して対応することで住民の利便性向上と効果的な相談体制を図り、住民福祉部門の相談体制や手続きを完結させるというワンストップ化を目指す。

●国の動向 「地域共生社会」の実現に向けた包括的な支援体制の提示（平成29年 2月）

指標：令和 2 年～令和 7 年を目途に地域課題の解決力を強化する体制と総合相談支援体制を構築

●現状

- ①住民福祉部門 4 課は 4 つの施設に分散して配置されている。
- ②福祉に関する事務が年々増加し、手続きや相談が複数の課におよぶ場合が多く、情報交換や協議が取りにくい。
- ③発達支援センター（療育事業所）は公民館 3 階にて事業実施しているが、利用者が就学前の子どもであることから 1 階で事業実施できることが望ましい。
- ④社会福祉協議会の事務所が福祉ステーション 2 階にあるため、住民にはわかりにくい。

●新たな本館 1 階配置

農業振興課から上下水道課のスペースに健康推進課、福祉課、自立支援課が入る。

●今後のスケジュール

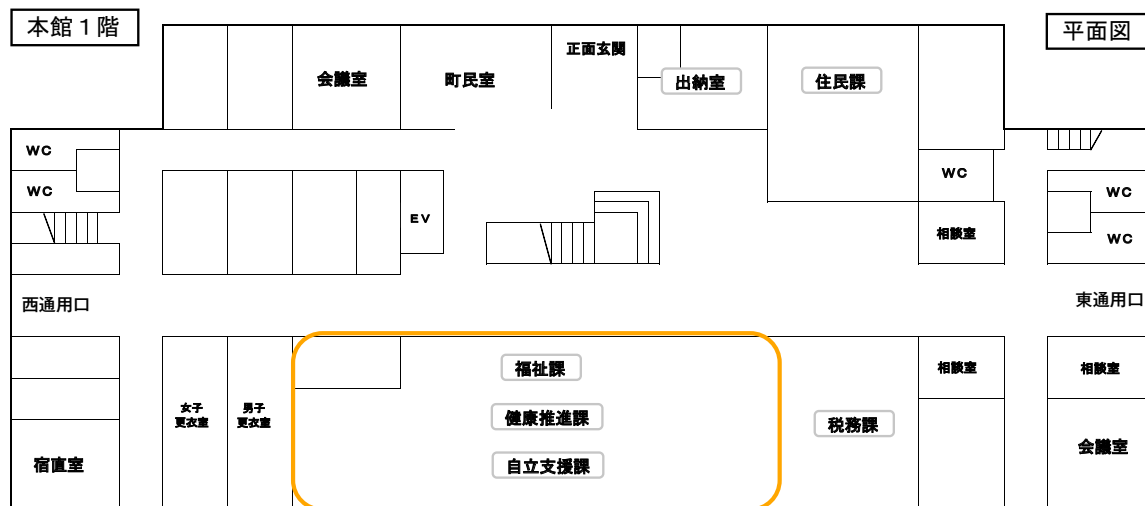
- ・別館改修（元有線放送施設等）、ネットワーク工事：令和 5 年 3 月～令和 6 年 3 月
- ・本館 1 階改修、ネットワーク工事：令和 6 年 7 月～令和 7 年 2 月
- ・住民福祉部門移設：令和 7 年 5 月

主な質疑応答

問 住民の利便性向上と効果的な相談体制の構築をめざして、本館 1 階に集約することは理解できるが、それだけで住民の利便性は向上するのか。

答 住民福祉部門を集約することで、相談体制の構築ができると思う。今後も発達支援センター、社会福祉協議会等の関係部署と引き続き協議を重ね相談体制の充実を図る。

住民福祉部門移設に係る庁舎利用計画について（素案）



総務産業建設常任委員会



住民対応窓口ワンストップ化に向けた庁舎の改修について

今日まで庁舎別館改修については、町の重点施策プロジェクトの中で、住民の利便性はもとより設備の老朽化の対応、また災害における非常時の対応を考えながら議論をしてきた。

◇別館改修工事概要

全体計画

本館から4課（商工観光課、農業振興課、建設計画課、上下水道課）を別館に移す計画に加えてバリアフリーに配慮し、来客者や職員にとって使いやすい配置および動線となるよう計画する。

◇主な改修内容

①電気設備

- ・照明器具は、LED器具を採用する。
- ・非常用発電機について、最大3日間、連続運転可能な機能を確保する。

②バリアフリー

- ・2階における本館と別館との段差およびその他の段差についても、スロープを整備する。

③別館への誘導

- ・動線を考慮したわかりやすい案内表示を整備する。

■工事期間

改修工事	令和5年3月～令和5年11月
ネットワーク工事	令和5年12月～令和6年3月
産業建設部門移設	令和6年5月上旬



主な質疑応答

問 本館から入って来た時に、別館の場所がわかりにくいのではないかと。

答 本館から入った場合でも別館にスムーズに誘導できるよう工夫していく。



竜王町農業振興ビジョン基本構想について

本町の農業の持続的な活性化や農業と連携したまちのあり方、産業のあり方、住民・事業者のあり方について描き、その実現に向けた取組を定めるものである。

基本構想：30年先の将来を見通しながら、令和4年度から令和13年度に基本的方向として5つの戦略を掲げ、優先順位を決めて取り組む。

実施計画：基本構想を踏まえ、当面5年間に実施する施策を定める。(令和4年度末策定予定)

主な質疑応答

問 農業振興ビジョン基本構想の課題は詳しく書かれているが、将来の姿は抽象的である。高収益農業に主眼を置いた基本構想を決めていただけないか。

答 基本構想は、30年先の将来像を実現していくための基本的な方向性を示したものであるもので、実施計画の中で具体的な施策を定めていく。

地域活性化特別委員会



中心核整備（交流・文教ゾーン）の進捗について

◇中心核整備事業の取組経過

- 6月1日 輝竜の郷づくり懇談会開催結果概要の広報周知
- 6月22日 交流・文教ゾーン整備に伴う造成・道路実施（詳細）設計および申請書作成業務着手
- 7月19日 道路実施設計に伴う現地測量着手
- 7月21日 綾戸対策委員会にこれまでの経過および今後の予定の説明と用排水路協議
- 7月25日 埋蔵文化財本発掘調査の現地作業着手
- 7月29日 交流・文教ゾーン整備に伴う地質調査業務着手

◇今年度の事業内容について

- ・埋蔵文化財本発掘調査および試掘調査 ・地質調査 ・敷地造成実施設計および道路詳細設計
- ・配水管布設実施設計 ・小学校建設基本設計実施設計 ・収用事業認定に向けた事前協議、申請
- ・開発許可、農地転用許可申請に向けた事前協議および申請 ・用地取得、建物等補償に向けた協議

主な質疑応答

問 用排水路の計画平面図を綾戸地区に説明された際、地元から何か意見はあったか。

答 一番に気にされたことは、ほ場への用水を適正に確保してもらえるかということと、水路の管理はどうなるのかということであった。

問 埋蔵文化財の試掘調査の結果により本掘調査となればスケジュール的に遅れることはないのか。

答 造成については令和5年を予定しているが、一気に造成はできないので、まずは小学校の敷地部分を造成し、その間に本掘調査を進め、スケジュール通りに進むようにしたいと考えている。



埋蔵文化財調査の様子

議会 ICT 化特別委員会



議会ICT化特別委員会活動について

◇議会ICT化特別委員会活動状況

7月6日 議会ICT化特別委員会

- ・議会ICT化の進め方について
- ・議会ICT化特別委員会研修について

7月21日 議会ICT化特別委員会

- ・タブレット端末のデモンストレーションの実施
- ・議会ICT化特別委員会研修について

8月23日 議会ICT化特別委員会先進地研修（彦根市議会）

視察項目

- ・彦根市議会におけるタブレット端末導入等のICT化にかかる経緯について
- ・議員の手元タブレット端末から議場の各モニターへの資料、映像を写し出す仕組みについて

考察

- ・彦根市議会においては、内部でのICT化にとどまらず、ICT機器を利用し、傍聴者に対しても開かれた議会づくりに取り組まれている。

9月12日 議会ICT化特別委員会

- ・彦根市市議会視察研修の報告まとめ
- ・野洲市市議会へのICT化取組におけるヒアリング結果に基づく検討



議会ICT化特別委員会先進地研修（彦根市市議会）

町政 ここを問う!

9月定例会では11議員が
19問の一般質問を行いました。

ページ	質問者	質問事項
11	岡山富男議員	・若者が暮らしやすい竜王町に ・運動部活動の地域移行について
12	磯部俊男議員	・新型コロナウイルス感染症対応について ・河川愛護事業における草刈機械整備支援策について
13	尾川幸左衛門議員	・山中谷田線の整備について ・小口八重谷線の整備について
14	小西久次議員	・法定外公共物（普通河川）維持管理は ・竜王小学校整備の進捗状況は
15	大前セツ子議員	・シティプロモーション事業について
	鎌田勝治議員	・マイナンバーカード普及の取組について
16	澤田満夫議員	・第六次竜王町総合計画の進捗管理について
	森島芳男議員	・児童虐待防止の取組について
17	橘せつ子議員	・竜王町コンパクトシティ化構想の中心核整備のあり方について ・路線バス・コミュニティバスの運行路線の見直しを ・竜王町ふれあい相談発達支援センターのあり方について※ ・惣四郎川の洪水対策について※
18	中村匡希議員	・家庭系ごみの削減目標への取組は ・空き家予備群への空き家対策について
19	福田優三議員	・竜王町立小学校の全国学力テストの結果について

※紙面の都合上、掲載しておりません。
QRコードから、全ての質問がお聴きいただけます。

各議員のQRコードを
スマートフォンで読み
取ると音声配信が聴け
るよ



近江うし丸

次回の一般質問は
令和4年12月20日(火)予定

議員の質問順は町ホームページでご確認ください。

問 議会事務局 電話 0748-58-3713



岡山 富男 議員



問 若者が暮らしやすい竜王町に

答 若い世代の考えを伺いたい



小口地先集合住宅

問 第六次竜王町総合計画で若者も暮らしやすい希望かなえる輝竜の郷と掲げられ計画されている。そこで、次の4点について伺う。

① 20代から30代前後の住民と行政との懇談をする機会が必要と思うが、懇談の計画はあるのか。

② 若者へ竜王町の魅力を発信できる情報場のづくりは進められているが、今後、発信力を強化する取り組みは。

③ 新たな集合住宅について、どのように考えているのか。

④ 中心核に若者も集まれる居場所づくりの計画はあるのか。

答 ① 懇談の機会を設けても参加が得られず悩んでいるが、SNSの活用など工夫も行い、若い世代の考えを積極的に伺っていきたい。

② 移住・定住者向けWEBページやインスタグラムの開設、PR動画などによるシティプロモーション事業を本格的にスタートした。

③ 集合住宅は、単身者や少人数世帯が一戸建て住宅を建築するまでの間の住まいとしてニーズはあると考えており、民間の力を活用しながら増やしていく。

④ 中心核の交流・文教ゾーンでは、コミュニティセンターや公園の整備も計画し、多世代の交流や活動の場としていきたい。

問 運動部活動の地域移行について

答 関係者等からの意見を反映

問 本年度、休日の運動部活動を地域に移行するための課題を検討するスポーツ庁の有識者会議にて、これまでの議論をまとめた提言の案が示された。今後、町として、平日の放課後や休日の部活動を実施するための受け皿をどのように考えているのか。

答 竜王中学校では、4名の部活動指導員と6名の外部指導者が技術指導等に当たっており、大きな成果もあがっている。この実績を踏まえながら、地域スポーツ関係者等から意見を伺い、県や他市町の動向を注視し、スポーツを楽しむ生徒たちが力を発揮する場を損なうことが無いよう、適切



部活動の様子

問 新型コロナウイルス感染症対応について

答 小児用ワクチン9月6日から適用開始



磯部 俊男 議員

問

①第7波での7月13日からの新規感染者における年代別発生状況は。

②7月以降の65歳以上等の第4回目ワクチンと5歳から11歳までにおける接種状況は。

③5歳から11歳までの接種における「努力義務」適用に向けての取組は。

答

①7月13日から9月15日までの感染者数は、19歳以下が358人と急激に増加し、20歳代から50歳代までにおいては、580人。60歳代以上は、158人と



集団接種受付の様子

なった。家庭内感染による感染拡大と考えられ、県による感染症重症区分において、19歳以下での該当者はない。
②65歳以上のワクチン接種率は9月12日現在、82・3％であり、5歳から11歳までの2回目の接種率は20・7％となっている。
③国において小児用ワクチンの安全性と有効性が確認されたことから、3回目の接種を含め9月6日から適用を開始している。国と同様にその安全性と有効性を発信し対象者の接種が進むよう、町のホームページ等で情報発信に努める。

問

河川愛護事業における

草刈機械整備支援策について

答

地域での機械化作業を取り入れての河川愛護事業を支援する

問

酷暑での激務、作業の困難性、長時間労働、熱中症等の危険性等から事業の将来的継続の困難性が高まっている中、事業継続、労働軽減、熱中症対策等の強化のための河川愛護事業対策は。

答

今年度も29自治会、2団体が河川愛護事業に取り組んでいる。

町としても地域の方々の作業負担の軽減に向け、県へ制度見直しを働きかけ、機械化を導入しやすい制度へと見直しを行っている。

機械作業面積も令和元年度は24万7千㎡であったが、令和4年度は52万3千㎡と増加している。



機械による河川愛護の様子

地域によっては厳しい状況にあることも認識している。
従来から区長会等で情報発信してきたが、今後は、具体的に機械作業を取り入れて、作業負担の軽減につながるよう丁寧な説明とサポート等に努めたい。



尾川 幸左衛門 議員



問 山中谷田線の整備について

答 企業庁の送水管、町の配水管の更新に併せて、同時期に対応ができるよう検討をすすめる



山中谷田線

問 山中谷田線は、道路幅員が3mから5m程度と狭く、さくら団地の玄関口で通学路になっているが歩道も自転車道もない現状である。この町道の改修計画について伺う。この町道には、企業庁送水管400mm、町配水管450mmの更新、さくら団地の汚水管の接続も考えられ現状道路下では、埋設が難しく、用地を確保する必要がある。

どのような工事計画で行うのか。

答 道路整備については、現時点で具体的な計画はないが、もし用地を取得し町道の拡幅を行うのであれば、道路事業により国の交付金を活用することになる。また、工事主体は、企業庁、町上下水道課、建設計画課が実施することになるが同時期に工事を行う等、効率的に発注できるよう協議を行う。どのような発注形態でも町内業者育成の観点を持ち合わせていきたい。

問 小口八重谷線の整備について

答 カーブミラーの設置について、公安委員会と協議を行いたい

問 小口八重谷線は、道路幅員が3m程度の2車線の道路である。しかし、松が丘入口部は、カーブし、入口部西側は、山で見通しが悪く道路を拡幅するにも用地の問題もありすぐには難しい状況下である。事故防止の観点からトラスコ中山（株）の前の歩道にカーブミラーを付ければ少し見通しが良くなると思うが。



小口八重谷線

答 令和元年度に、松が丘自治会からも要望があり、滋賀県公安委員会と現地立会を行った。交通安全対策を検討する中で町からは、カーブミラー設置の協議を行ったが、当時公安委員会からは同意されなかった。そこで、

路面標示等の交通安全対策を行ったものの現状において見通し自体は改善されていない。改めてカーブミラーの設置について、公安委員会と協議を行いたい。

問 法定外公共物（普通河川） 維持管理は

答 地元自治会と協議し進める



小西 久次 議員



立木による護岸欠損

問 普通河川は法定外公共物管理条例により町が管理している。山之上地先一級河川惣四郎川上流部は普通河川であり、地元で管理されてきた。農家の減少や土地の売却が進み、地元集落では普通河川の維持管理が困難になってきている。水路沿いの樹木は大木となり、地元では対応ができない。解決に向けた見解を問う。

答 普通河川等の法定外公共物は、従来同様維持管理については自治会等地域が担っており、災害が発生した場合や損傷が

著しい場合等は、町で対応している。山之上地先惣四郎川上流部の普通河川は、昭和50年代に土地改良により整備されたが、宅地化され維持管理が行き届かなくなったと思われる。現地は樹木が大木化し、大木が原因でプレハブ水路が損傷し崩落している箇所もある。町としては、現地調査を行い、状況を把握し、修繕の方法を検討する。構造物に影響を及ぼす樹木の対応についても、地元自治会や隣接企業と調整を図り検討する。当該箇所は、管理上課題があるため、地元自治会と協議し解決に向け進める。

問 竜王小学校整備の進捗状況は

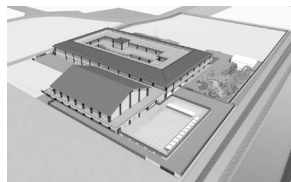
答 一部から意見要望があるが

令和7年に遅れることの無いよう努力する

問 竜王町コンパクトシティ化構想・中心核整備・竜王小学校の移転新築については、まちづくり懇談会や町民説明会が開催され、議会においても委員会説明や本会議で関連予算等議決承認してきた。計画通り進むのか心配するところである。現在の進捗状況と今後の見通しは。一部で整備推進に対する意見等を目にするが、町としての見解は。

答 「交流・文教ゾーン」の整備にあたっては、令和3年度から基本設計等に着手した。今年度は、土地収用法事業認定、開発許可、農地転用等事前協議を進めている。竜王小学校建設は基本設計・実施設計業務を発注

し、令和5年度に業務完了する。令和5年度から意見や竜王小学校建設にかかる要望がある。今後の整備推進に当たっても意見等を参考にし、遅れることのないよう努力する。



整備が待たれる竜王小学校



大前 セツ子 議員



問 シティプロモーション事業について

答 新たな時代に向けて変革していく姿をアピールしていく



シティプロモーション動画より抜粋

答 PR動画を発信して約2か月間で1105回と目標を上回る再生回数であった。

問 令和3年度より「revoriryuution! 竜王」と言うブランドコンセプトを定め、若者層を中心に人口増加を目指し、シティプロモーション事業を進められているが、その反響や今後の取組は。

本年度はインナープロモーションに重点を置いて町民・企業・団体にPRしていく。次年度はメディア活用や企業等との協働により、町外・県外へのアウトタープロモーションにも力を入れていく。

誰もが輝ける「輝竜の郷」の創造に向けて変革していく姿を前面に押し出し、様々なツールを活用してアピールしていきたい。



鎌田 勝治 議員



問 マイナンバーカード普及の取組について

答 庁内の横断的な連携により積極的にPRの機会を増やす

① 8月からワクチン接種会場で申請サポートを開始した。更に、9月からは、大手スーパーや自治会への出張申請を予定している。また、

問 マイナンバーカードの普及について、次の3点について町の見解を伺う。

① まずは、町として独自に普及促進を行う考えはあるか。あるとすれば、その具体的な取組を検討されているか。

② 全国で竜王町と同規模の自治体の中で60%を超える高い普及率の自治体があるが、そういう先進地の情報を積極的に収集しているか。

③ 現在、マイナンバーカードに関する所管は住民課となっているが、今後は各課を横断してプロジェクトチームで対応するような検討はされているか。



出張申請サポートの様子

月2回の平日時間外受付、月1回の休日受付も開始した。

② 比較的交付率の高い自治体での取組を参考に出張申請サポートを始めた。今後は高齢者宅への訪問などの事例を参考に本町に見合った取組を進める。

③ 限られた人員の中でカード事務に特化した体制整備は難しいが、各課の所管事業において、庁内の横断的な連携により、創意工夫してカードPRの機会を増やしたい。

問 第六次竜王町総合計画の進捗管理について

答 施策の実効性確保のため進捗状況や効果の評価を実施する



澤田 満夫 議員



第六次竜王町総合計画

問 第六次竜王町総合計画には、毎年度重点プロジェクトおよび基本施策に指標を設け、進捗管理を行うと記されているが令和3年度分は行ったのか。

答 第六次竜王町総合計画は、施策の実効性を確保するため、毎年度において行政内部による評価を実施し、進捗状況や効果について竜王町総合計画審議会や町議会に報告することとしている。

総合計画の推進に当たって、主要なものは令和4年度の重点施策プロジェクトを立案する過程で令和3年度における進捗状況の確認と成果および課題について整理した。総合計画全体については、これらの内容も踏まえ現在評価シートの作成など評価の実施に向けて詰めの作業を行っている。

事業評価においては指標の管理は勿論のこと、経費や業務量について現状把握を行い、必要性・効率性・有効性の観点で評価を考える。

問 児童虐待防止の取組について

答 児童の安心安全を確保できるよう努める



森島 芳男 議員



竜王町子ども家庭相談室

問 県は令和3年度に子ども家庭相談センター（児童相談所3か所）と市町に寄せられた児童虐待の相談件数が過去最多の計8301件だったと発表した。子どもの前で親同士が暴力行為や言い争いをする「面前DV」といった「心理的虐待」や「身体的虐待」などがある。竜王町内においても児童虐待が行われているのか。情報などを収集し、把握しているのか。

答 本町における虐待種別の集計では、育児放棄（ネグレクト）が最多で、次が心理的虐待、身体的虐待と続く。相談・通告があれば、まずは、児童の安全を確認する。次に児童の近況等の情報を関係機関等から収集し、虐待の危険性を判断した上で、児童や世帯に接触を図り相談支援を行う。地域住民等への虐待防止に向けた啓発や相談体制の強化及び関係機関との連携の充実を図り、児童の安心安全を確保できるよう努める。



橘 せつ子 議員



問 中心核整備の財政計画と増額への対応は

答 増額等事業費の変動があっても検討・精査し進める



中心核整備予定地

答

交流・文教ゾーン整

問 中心核整備全体の費用や交流・文教ゾーン整備の中長期の財政計画が示されないまま、今定例会にも補正予算が上程され、個々の事業が進められている。今後、交流・文教ゾーン整備の概算事業費が55億円より大きく増額になった場合の対応は。交流・文教ゾーンのコミュニティセンターと竜王町公民館の関係は。安易な統合はするべきでないと思うが。

議を進めていく。

備の中長期の財政計画については、見通しを立てながら調整を行っている。事業費の考え方としては、今ある課題を解決するため増額等の事業費の変動があっても、将来の住民負担が過度とならないよう充分検討・精査して進めていく。

竜王町公民館は文化振興による人づくり、まちづくりの拠点として不可欠と考えており、公民館的機能を備えたコミュニティセンターにしていく考えである。関係課と協議を進めていく。

問 路線バス・コミュニティバスの運行路線の見直しを

答 タウンセンター回りの運行は

課題が多く困難である

問

竜王町の地域交通

は近江八幡駅を起点として路線バス3コースと、コミュニティバスが運行されている。通勤時間帯を除き、岡屋線のように竜王町タウンセンター回りで運行してもらうことで、乗り換えにより東西移動が可能になるのでは。地域交通の拠点として早期の対応が望まれるが、町の考えは。

の低下が考えられる。また、運行経費も増え、運賃える。東西方向移動は「チョイソコリゆうおう」の可能性があり、課題をぜひご利用頂きたい。

答 本町の路線バスは近江八幡駅や野洲駅を起終点として6路線（7系統）の運行がある。岡屋線以外の路線もタウンセンター回りの運行をする距離や乗車時間が長くなり、サイクルが悪く、便数が減少する等利便性



竜王町タウンセンター前を運行する路線バス

問 ごみ削減への取組は

答 食べ残し等を減らしていきたい



中村 匡希 議員



流し台のごみネットの水分を抜く
「生ごみの一絞り運動」

問 現在竜王町の家庭系ごみの量は1人1日当たり488gとなっている。令和8年度の削減目標440gの実現に向けた

① 具体的な方策、
② 課題の分析、
③ 草刈りの雑草等のごみ削減の取組は。

答 ① 作りすぎによる「食べ残し」、野菜のへたなどを除去するときに大きく切り取られる「過剰除去」等に気をつけてもらい、家庭から出

る食品ごみを減らす取組を進めている。

② コロナ禍やテレワークの普及等で自宅時間が増え、家財等の整理作業で処分が多く発生し、可燃性ごみは増加していると推測している。

③ 草刈り後の雑草は燃えるごみとしてゴミ袋に入れていただくよう案内している。その際、できるだけ草を乾燥させ、軽量化や堆肥化することで搬入量を少なくするよう働きかけている。

問 空き家予備群対策は

答 意識啓発をして関連団体とも連携していく

問 現在竜王町には約150件の空き家があるが、65歳以上の単身者のみ世帯は「空き家予備群」とも呼ばれる。空き家対策には所有者が健在のときに行う取組も含まれるが、次の点について伺う。

① 高齢者福祉等の関連部署との連携は。
② 本町の高齢者のみ世帯の数は。
③ NPO・事業者等の利活用についての考え方は。

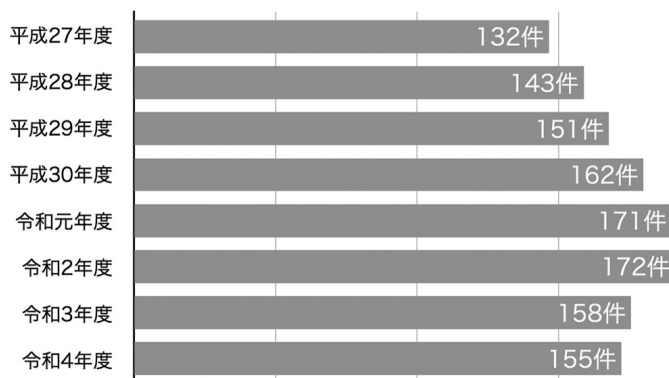
答 ① エンディングノートの配布や、老いの備えフォーラムを開催し司法書士を招いて意識啓発を行っている。

② 夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみで構成される世帯は528世帯

③ 公益社団法人滋賀県宅地建物取引業協会と連

携協定を締結しており、今後も連携を図っていききたい。

竜王町の空き家件数の推移



※各自治会に依頼している空き家等実態調査より



福田 優三 議員



問 竜王町立小学校の全国学力テストの結果について

答 学校と連携し取組を進めていく



問 本町の小学校の正答率については全教科全国平均を上回った。小学校

問 令和4年4月に行われた全国学力テストの竜王町の両小学校の結果を聞いたところ、竜王小学校と竜王西小学校の全国学力テストの結果を合わせると、すべての教科において全国平均を上回っている。と聞いている。

この結果を踏まえ、竜王町としてどのような取組をされたのか、また、新しい取組や独自の取組は。

答 今後も学校と教育委員会が連携し取組を進めていきたい。

においては徹底反復学習の竜王チャレンジタイムの取組で漢字の定着や計算力の向上などこれまでに積み上げてきた成果が着実に表れてきていると考えている。また県費による専科指導の教員が両小学校に配置されたことに加え、町費の講師や支援員の配置によって少人数指導や個別指導などが充実し、竜王ならではの厚い教育の支えもあって今回の結果があると認識している。



議会広報特別委員会視察研修を行いました！

去る9月21日～22日に議会広報特別委員会視察研修を行いました。

9月21日

東京都で開催された「令和4年度町村議会広報研修会」に参加し、伝わる情報発信のコツを身につけるため、広報のあるべき姿や広報に必要なことについて3人の講師から次の講習を受けました。

- ・「そろそろ化けませんか!!」～絶滅危惧から持続可能な議会広報へ～
- ・これからの議会広報を考える～住民に“伝わる”情報発信と広報紙作成のポイント～
- ・優秀議会広報クリニック 3つの議会広報が教えてくれること

9月22日

「滋賀県東京本部」と「ここ滋賀」を訪問しました。滋賀県東京本部では、首都圏ネットワークの充実、発信力強化に向けた中央省庁の滋賀県関係者との人脈づくり等の取組について説明を受けました。また、ここ滋賀では、リニューアルの概要や魅力発信のための取組について説明を受けました。



竜王八景

鳴谷の清流と石床



表紙

「竜王新古今八景」とは、町内各地に根付く、風習・人々の生業・現在まで受け継がれてきた地域の価値観・竜王を形つくる新しい顔を意識した心象風景です。

名神高速道路の開通が昭和40年。その出来事は、町の変遷に大きな影響を与えた。その後、昭和49年に大手自動車メーカーの工場立地、昭和56年に名神高速道路竜王インターチェンジの開設があり、当町にとって、この間は物流の利便性が飛躍的に向上し、産業構造が大きく変化した時期である。

実際、当町の現在の工業生産額は、県内市町の中で第2位に位置していることから「農業のまち」に加え「ものづくりのまち」にもなった。最近では、滋賀竜王・山面両工業団地に大手や優良企業が進出し、一層その度合いが高まりそうである。

ものづくり面での当町は、古墳時代から当時の先端技術を駆使した須恵器の生産が初期であるが、今では幾多の変遷を経て近代的工業地域としての息吹が感じられるまでに発展してきた。なお、裏表紙の「竜王八景」は、菓師の鳴谷の清流と石床です。

編集後記

夜に窓を開けるとコオロギなどの虫達の合唱に耳を澄ますのどかな好季節になりました。

しかし、相変わらず我々の生活に影を落とすのは、昨年から物価の値上げラッシュ。特に、消費者物価の急上昇は大きな圧迫感を覚えます。現在、国・県では、対策を講じていますが、議会からも要望し、町独自の支援策も出されました。今後も、議会としても物価動向には注視してまいります。

また、9月定例会では、令和3年度決算認定の承認をしました。その会期中、町内の大型商業施設にふるさと納税自動販売機が設置され、今後、多くの町外観光客にも当町のまちづくりや余裕を持った町財政運営への手助けを期待したいものです。

議会広報特別委員会

委員長	鎌田 勝治
副委員長	森島 芳男
委員	澤田 満夫
委員	尾川幸左衛門
委員	磯部 俊男
委員	貴多 正幸



環境に配慮し、再生紙及び植物油インキを使用しています